

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200253		
法人名	社会福祉法人グリーンコープ		
事業所名	グループホームほのか・八代		
所在地	熊本県八代市本町4丁目2-28		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になられても楽しく生活できるように利用者さんの声に耳を傾け、スタッフみんなで話し合って運営しています。食事は安心・安全なグリーンコープの食材を利用し、時にはほのかの畑で採れた野菜を使用します。おやつ作りなどは利用者さんたちと一緒にすることもあります。誕生会はその方の誕生日に合わせて手作りのケーキでお祝いします。春の花見は朝からおにぎりを利用者さんたちと一緒に作って出かけます。街の中心地に位置するので商店街や史跡などにも出かけられます。地域との関わりも大切にし地域の祭りの時は出店します。妙見祭りの際は神幸行列をほのか前で利用者さんと一緒に見物し地域の方たちと触れ合う機会を持っています。出会った方を最期まで支えるを基本とし、これまでほのかで看取った方は3名、今年度は、入院先で亡くなられた方2名の葬儀に利用者さんも一緒に参列して献花してお見送りました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人格を社会福祉法人へ移行したホームは、周辺に点在する菩提寺での参詣やアーケード街での買い物等社会資源が近くにある環境の良い地域にある。職員同士のチームワークも良く、開設時から関わってきた経験豊富な管理者のリーダーシップや職場内外研修に積極的に参加しブラシアップに励み、入居者のより良い生活のため真摯にケアに努めている。併設するデイと共に地域住民と入居者及び家族も巻き込みながらの地域サロンの開催や、運営推進会議を生かした運営体制として防災訓練を組み入れる等有効に活用している。地域の祭り時の食バザーやリサイクルバザーとしての関りや、町内会の総会や懇親会への参加に地域の中にとしっかりと息づいてことが表れている。震災時は自主避難所として地域に開放されており、今後も地域福祉や災害時の地域の拠り所として大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほのかの基本理念は、開所時にスタッフみんなで話し合って決めた。毎朝の申し送りの際に唱和し、スタッフひとりひとりが心に留めるようにしている。利用者の対応で迷った時など理念に照らして振り返っている。	法人が掲げる“共に生きる”の実現に向け、ホームとしての基本理念4項目を掲げ、毎日の唱和により意識強化や、「入居者にとってはどうなのか」という入居者本位を規範として、出会った方を最期まで支えるという思いを持って、日々真摯にケアに努めている。年間研修の中での目標の設置や、“助け合いワーカーズこころ”のメンバーとして職員の意見を基にした方針が掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内の総会や懇親会にも参加した。地域の神社の祭りの際は、グループ内のワーカー達と手作り品や、リサイクル品、食バザーなど行った。	市内の中心にあるホームでは天気の良い日には菩提寺3ヶ所のお墓参りや、アーケードまでの散歩等立地条件を生かしながら地域との関係性を継続させている。町内会に加入し、総会や懇親会への参加や、施設内で介護予防に向けたサロンを開催し、住民と入居者及び家族との交流の一環としている。また、塩屋八幡祭には出店を出す等地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座の講師を務め、認知症の人の理解や実践報告など行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の様子を説明したり、事業所運営についてご意見を頂き、参考にしている。会議と併せて4月は地域包括支援センターの作業療法士を講師に迎え介護予防教室を開催した。10月は消防訓練、11月には、地域の祭りの際、バザーを行い、利用者も参加した。	年6回開催している運営推進会議は、消防訓練を組み入れながら話し合いを行ったり、地域の祭りを組み込み等創意工夫している。また、入居者の様子を詳細に説明しており、透明性のある運営体制であるとともに、報告事案について意見を求める等この会議の意義を的確に捉えている。参加委員の相談場所としてもこの会議が生かされている。	この会議を生かした運営であることが、議事録に表出している。今後も会議の内容を職員全員が共有し、協議内容を重要視し正確に記述する事を期待したい。意見等どなたの意見であるのかを明確にすることを検討いただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として、市担当者も毎回参加して頂き、定期的に、相談・報告している。研修会の案内をメールで頂いたり、介護保険制度に関する相談などもその都度行い、助言を頂きながら進めている。	運営推進会議の中で、意見やアドバイス等を得たり、市役所が近いというメリットを生かし不明な事案など事あるごとに担当部署にかけ相談・アドバイスを得ている。また、入居者の経済的な面からの相談や、地域包括支援センターからの入居相談や紹介等協力関係が築かれている。市が行う“まちの先生派遣事業”を利用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル作成し、職場内研修を行った。身体拘束にはスピーチロックや鍵の施錠も含まれることを共有した。玄関の施錠は以前は行っていなかったが、今年度、若年性認知症の利用者が、外に出られて行方不明になられたので、一時期日中も施錠していたが、現在は着かれたので、極力施錠しないように努めている。	定期的に研修を開催しているが、スピーチロックについては気づかずに使ってしまうケースもあり、都度話し合いを行っている。入居者個々の外出傾向を把握はしているものの、無断外出という事例に施錠をした時期もあるが現在は開錠している。	現在は落ち着いた生活であるが、玄関先の階段等危険箇所もあるように見受けられ、今後も外出傾向の早期察知や所在確認の徹底が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職場内研修を行い。利用者の尊厳を大事にすることを日々心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	4月に退去した利用者が、入居当時、日常生活自立支援事業を利用されていた。成年後見制度利用に移行するに伴い、市長申立の手続きから鑑定の同行などの支援を行った。成年後見人が就いたことで疎遠だった家族とも連絡がとれ4月に家族と共に出身地へ戻られた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者やご家族へ契約書を読み上げ説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見・要望があれば、管理者から職場会議で職員へ報告し検討している。運営推進会議や管理者会議・介護リーダー会議でも報告相談し、運営に反映させている。家族会ではアンケートを取り、要望については職員間で話し合った。意見箱も設置している。職員が家族とコミュニケーションを積極的に図ることで家族の意見・要望を聞きやすい雰囲気にもなっている。	意見箱の設置や、入居者同士の会話や友人との会話の中から苦情ではと思える事案を苦情と捉えたり、電話等による申し出に苦情相談記録簿に記載し再発防止を検討している。また、家族に時期や日程をアンケート方式で聞き取りして開催する家族会は、年間の振り返りやサービス提供体制・運営推進会議内容等を説明している。家族との良好な関係が築かれていることは、家族の紹介によるボランティアの訪問や行事参加に表れ、運営推進会議も問題提起の場として運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案を日常的に聞いたり、意見要望などノートに職員が記入している。職場会議の前にリーダー・看護職員会議を開催し職員からの意見を事前に把握、職場会議でも職員と話し合い、了承されたことは、反映させている。	管理者は日々ケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見に随時できる事はその都度対応し、話し合いの必要な場合はリーダー・看護職員との会議により決めるとしている。職員会議、法人理事会や他部署との会議等職員が意見や提案を出す機会は多く設定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部が事業所から離れており、代表者は月2回の本部での会議で管理者からの報告となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では、年間研修計画を立てて、研修を行っている。外部研修の案内も常時行い参加を促している。参加後は、職場会議での報告、研修を行い職員で共有している介護職員初任者研修の受講料、介護福祉士や介護支援専門員修得に向け受験対策講座の受講料、受験料、交通費の助成制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会へ加入し、八代ブロック会の副世話人も務めている。研修会など企画、参加し、情報交換を行っている。法人内のグループホームの職員同士の交流も行っている。3月に認知症介護指導者の施設での見学研修を予定している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りを第一に考え、ご家族の話なども併せて、これまでの生活習慣や馴染みのものを聞きだし、自宅にいるような雰囲気近づけるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申込みの際に、ほのかの施設や共同生活についての説明をし、家族の不安なことや要望などを聞き、家族の想いがケアに活かせるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や生活習慣などを把握しながら必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持てる力を引き出すように努め、洗濯物干しや洗濯たたみ、調理の盛り付け、おやつ作りなど家族の一員として、毎日一緒に行っている。人生の先輩として生き方、暮らし方を教わり、職員も成長させて頂くという気持ちを持って接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会も頻繁にある。来訪された際はホームでの様子を伝えている。行事の案内もし、共に楽しく過ごしてもらっている。家族会も開き家族間の交流も図っている。請求書配布時に「ほのか便り」と併せて職員の手書きのお便り(近況報告)を配布している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの病院やお店、近所への買い物など支援に努めている。	成年後見人の利用が家族との再構築に繋がりを、新幹線開通に伴い後見人と相談し青森まで出かけたり、北海道旅行等家族に支援も得ながらこれまでの関係性を継続させている。また菩提寺への墓参り、初詣、ひな祭り見学、自宅が近くにある入居者にとっては通いなれたアーケードでの買い物支援の他、十五夜、彼岸のおはぎ作り、6月1日には雪餅を食べるという慣習等継続して支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の生活を大事にしながら、日中はリビングで過ごすことが多いので利用者同士、仲間のような親戚のような関係ができつつある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほのかで看取りを行い、亡くなられた方のお墓が近所にあるので利用者と一緒に墓参りに伺った。6年前に退去(入院先で死去)された利用者の妻からも入居の問い合わせが何度かあった。ご家族とも連絡を取ったりした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや、なにげなく言った言葉を受け留め、スタッフ間で情報交換して検討している。言葉が発せられない利用者には、ご本人の表情や態度から推察したり、家族からの情報を元に本人の希望、意向の把握に努めている。	“その人らしい生活”を視点に、何気ない会話の中から行きたい場所や食べたい物などを把握している。意思疎通困難な状況には、アセスメントでの情報の把握と共に、職員は一人ひとりに寄り添い、その時々状況や背景等を探り、その時の会話から思いを把握し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職場会議にて本人の様子を話し合い、本人、家族の希望や要望を聞いた上で、ケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議・ケア会議にて本人の様子を話し合い、本人、家族の希望や要望を聞いた上で、ケアプランに反映させている。モニタリングは利用者の担当者決めて行っている。	本人・家族の意向をもとに毎月のケア会議の中で話し合い、担当職員によりモニタリングをもとに毎年1回は見直し再作成するとともに、救急搬送により主治医の意見をもとにプランを見直す等現状に即したプランを作成している。	毎月のケア会議を生かしたプランの見直しがなされている。更には随時追加や削除等を行う事により、職員の観察力や気づきがプラン作成に反映されるであろうと期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人提供記録に、本人の発せられた言葉・日々の様子や気づきを記入し、申し送りの際読み取りを行う。ケア会議で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者や家族の状況、その時々ニーズを把握し、柔軟に対応し、支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々からの情報、アドバイスにより、利用者が心身から暮らしを楽しむことが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞き、基本的に、利用者のこれまでのかかりつけ医に受診している。認知症専門医への受診も併せて行い、確かな病状を把握している。病院受診の際は、職員が同行している。病状が悪化した場合などご家族、医療機関とも連携を図っている。通院が困難な方には訪問診療をお願いしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を継続して支援しており、協力医による定期受診をホームや家族で対応している。家族対応時は血圧などの情報を提供し、結果を双方で共有している。また、他の医療機関による往診も行われている。重度化や終末期に入られた方には、往診の面から医療機関を紹介し変更される方もおられる。日々のバイタルチェックや健康管理はホームや併設事業所の看護職員とも連携を図り、体重測定は立位のできる方はホームで、困難な方は受診時に医療機関で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と介護職員は相談しながら個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。介護リーダーは看護師である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時は、職員が同行し、入院中も頻繁に病院へ面会に行き、病院関係者との情報交換や相談をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応についての指針」や看取り同意書・事前指定書など家族に説明している。ほのかでの看取りを希望される利用者は看取り介護計画書を作成。家族・医療機関・職員と連携し看取り介護を行っている。	重度化した場合の指針を作成し、実際そのような状態になった時点で、家族と話し合いのもと同意書を交わしている。医療的な対応が必要となれば困難であるが、『入居者がどのような状態になっても、最期まで個人の尊厳を守り、その人の「人生」に寄り添いながら、1日1日にちを大切にすること』を理念に掲げ、出来る最良の支援に努めている。また、看取りに関する研修会に参加している。	本年度はギリギリまでホームで対応し、最終を医療機関で迎えられた方が2名おられる。入居者も葬儀に参列し、最期の時間を持たれたようである。今後も入居者に寄り添いながら、最良の時間を提供するホームとして期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内で急変時の対応など看護師を講師に研修を行っている。状態の変化に気づく観察力を身につけることを職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーに協力を呼びかけている。年2回消防避難訓練を実施。1回は、町内会にも案内し、町内役員・家族なども参加して開催した。消防署にも要請したが災害発生のため欠席された。1回はセコム職員立ち合いの下、消防訓練を行った。	地域代表者の参加協力や運営推進会議後に開催するなど、年2回の消防避難訓練を実施している。訓練後の意見交換で、歩行が困難な方に車椅子利用はどうか？車椅子は何かあるのか？など質問が出されている。火災については、室内のコンセントや外回りに可燃物がないか掃除チェックを行っている。熊本地震では、自主避難所として併設事業所とともに地域に開放し、ホーム内の落下物についても点検を行っている。	昨今の自然災害のもたらす被害は想像を超えるものであり、今後とも水害・台風などについてもまずは机上訓練や研修会の開催に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者には敬語を使うように心がけている。スタッフによって馴れ馴れしい口調になっている場合もあるが、個人の尊厳を守るような声かけをするように話合っている。居室に入る際は、利用者に声かけして、入室している。	呼称は苗字や下の名、これまでの呼ばれ方など個々に応じている。人生の先輩として尊厳を持った言葉使いに努めるようにしているが、馴れ合いの言葉もあり、ゆっくりと話すことや方言を交えながらも失礼の無いようにすることを共有している。プライバシーや個人情報については、研修会の中で周知を図っており、入浴支援は女性職員のみで対応している。	居室へ入る際は在室の有無に関わらず、ノックの徹底が望ましいと思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でご本人が思いや希望を言いやすい言葉掛けに心掛けている。利用者の自己選択、自己決定を大切にするように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、希望に添えるように、柔軟に対応するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に化粧水や乳液、個人所有のブラシなど準備し、ご自分でできる方には自由に使える環境を整えている。訪問美容の利用を支援している。外出の際は、ご自分で服を選んでもらい、おしゃれを楽しんでもらっている。サロンにてメイクアップ教室を開催した。お化粧もできる環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなど利用者が言いやすい雰囲気、努め食べたいものがあれば、メニューに追加したりと工夫している。利用者の能力に応じて、食事の盛り付けは毎回、おやつ作りなどは時々利用者と一緒にやっている。	献立には毎食に汁物を付け喉越しを良くし、食形態も個々に応じ提供している。誕生日には要望があれば、刺身も準備している。食材は安心・安全にこだわり配達され、魚は鮮魚店から届けられている。また、年間を通して畑で野菜を育てており、日々の調理に活用している。入居者が日々の調理に関わることは殆どないが、野菜の下準備(筍の皮むきなど)や彼岸のおはぎ・誕生会のケーキ・紫蘇ジュース作りなど一緒に行っている。職員1名の検食が、会議の中での意見や気づきとして食事支援に生かされている。	法人の収穫体験で生産者の畑(里芋)に出かけ、食材としても活用するなど、食に関わる取り組みが毎年行われている。また、外出を兼ねた食事支援も好評であり、今後も入居者に楽しい食の提供を継続いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録し把握している。一人ひとりの歯の状態を把握し、食材によっては刻みやすりおろしミキサー食など工夫している。食が進まない方にはゼリーやプリン、好みのパンやジュースなどを差し上げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた食後のケアに努めている。訪問歯科の利用も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけをしている。日中は布パンツのみや布パンツにパット着用、夜間は紙パンツ、オムツで対応など自立に向け支援に心がけている。	排泄パターンを把握し、自立の方の継続や声かけ・誘導など個々支援に努めている。ホーム内には車椅子対応1ヶ所を含め、3ヶ所のトイレが設けられているが、男性用立位式の便器が無いことは、慣習や尊厳の点から不十分ではないかと語っている。排泄用品の購入はホームと家族も行っており、適切な用品や組み合わせを検討しながら準備している。ポータブルトイレを使用される方もあり、日中は天日干しを行うなど清潔に管理している。	トイレ内に置かれた排泄用品は、全てのトイレにおいてクロスやケースに収納するなど職員の更なる工夫に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、全員毎日牛乳を飲んでいただいている。便秘ぎみの方にはバナナや乳製品、乳酸飲料など食事による便秘予防やお腹のマッサージなども行い、薬に頼らないケアの工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は基本的に日中の時間帯。入浴剤の活用や季節によっては、ゆずや菖蒲を入れて季節感を楽しんで頂いている。便失禁のあった場合は入浴を促している。	入浴は午前・午後、希望にも配慮しながら支援しており、毎日の入浴や週3回程度の入居者等希望に応じている。毎回一人ずつの湯の入替が、1番風呂気分を味わえると入浴の楽しみを広げている。身体機能の低下から、リフトを設置するなど入居者の状況に応じた改善により、安全な入浴を支援している。	浴槽の棚に置かれた洗剤や物品は安全面からも別の場所で管理することで、スッキリと寛げる浴室になると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるように室温の調節、布団干しなど行っている。自宅で布団を使用していた方にはベッドではなく布団を敷くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名・目的・用法・容量また病状の変化についても記録、申し送りなどによりその都度情報を共有している。薬ファイルも準備し、いつでも確認できるようにしている。投薬マニュアルを作成し、投薬の際は、利用者名・日付など声に出して確認してから与薬し、飲み終わるまで見守るようにしている。飲み込みの悪い方にはゼリーで溶いたり工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事を利用者と一緒に行ったり、生け花をお願いしたりとその方が役割を持って生活できるように支援している。歌や踊り、民謡の好きな方、トランプの好きな方などその方の好みを聞き出し、生き活きと暮らせるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に同行したり行事の際は、利用者からの意見をもとに博物館、アーケードの催事、ショッピング、外食など企画し実施した。また馴染みの食堂に行きたいと願う利用者の声を聞き、実施した。	散歩がてら菩提寺への墓参、系列事業所のカフェ、自宅や愛犬の様子を見に帰る方、喫茶店に行きたいの要望からファミレスでお茶を楽しむなど個別支援や少人数での外出支援に努めている。また、地元神社の初詣や祭り(バザー・獅子舞見物)、博物館や妙見祭で神幸行列見物、アーケードでの買物など、地域資源を活用しながら外出支援を行っている。以前は夏祭りへもを個別支援で夜間外出を行っていたが、認知上の進行と共に、困難になっている。	旅行や祭り見物など家族の協力を得た外出支援も行われている。今後も菜園の様子を見たり、商店街や地域資源を活用しながら入居者が外気に触れる機会を持たれる事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名以外は職員が預かっている。2名の方は財布にお金を入れていることで安心されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた際など、電話をかけて話せるようにしている。年賀状は、全員写真入りの年賀状を作成し、その方の状態に応じて、名前を書いて頂いた。ご本人の希望を尋ね、複数のご家族に送った		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁には季節感ある飾りを利用者と一緒に作成し飾っている。エアコンの風を不快に思われる利用者がおられるので常時室温に留意している。以前は季節の花をリビングに飾っていたが地震発生後は控えている。	ホール内には入居者の作品や飾り物など、職員が工夫を凝らしながら季節感のある空間作りに努めている。テレビの見やすさや採光に配慮したソファ配置により、ホール内で楽しい時代劇を見たり、洗濯物たたみなどゆっくりと過ごす空間としている。ウッドデッキで以前はお茶の時間も持たれていたが、現在は入居者の身体状況から洗濯物干しの場としての活用が中心となり、足腰のしっかりされた方が、一緒に取り込みを手伝われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや一人掛け椅子などその日の気分に応じて思い思いに過ごせるように居場所工夫をしている。一人になられた時は、さりげなく見守るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居る雰囲気大切にし、馴染みの家具や身の回り品など置くようにしている。ご家族の写真なども飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	入居時に馴染みの品の持ち込みを説明しており、籐のタンスや鏡台など自宅のものを可能な限り持ち込まれている。職員は歩行状態に合わせてベッドの位置を見直したり、家族の写真等安心に繋がるものがあればその都度依頼している。居室にはベッドが準備されているが、環境に慣れるまでは入居前の就寝状況で対応するなど、本人のペースにも十分配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー廊下には手すりを設置。各居室の小窓にはその方の生活歴やその方の好きな花など尋ねてその方に合ったイラストを張っている。夜間、トイレに迷わないようにトイレの電気は付けている。		